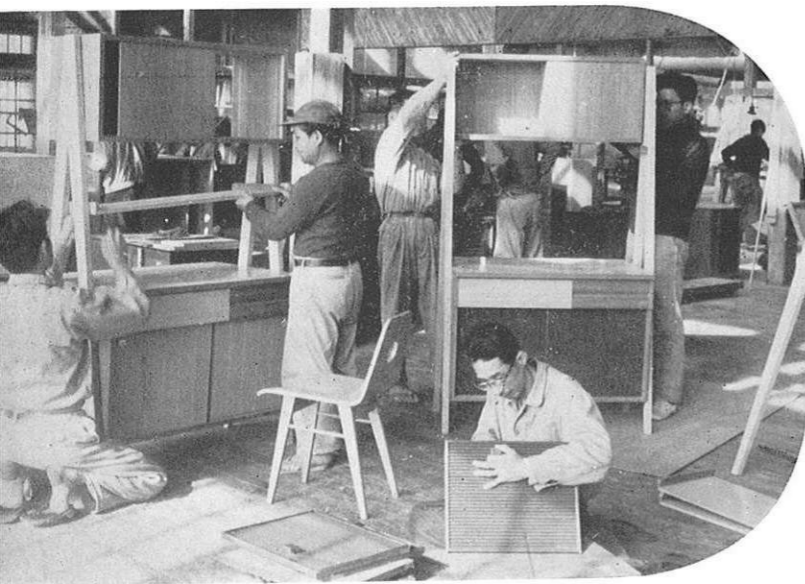


熊本県工業試験場



上 試験場(本館)の正面玄関

下、室内家具も新しい意匠が試みられている……木工部



右上、鋳物の硬度検査…検査部

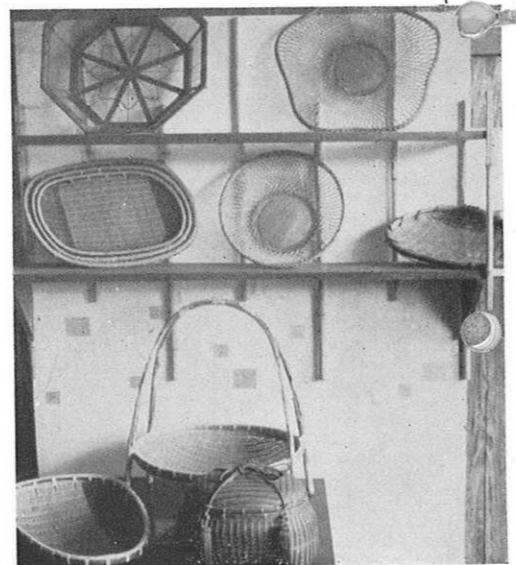
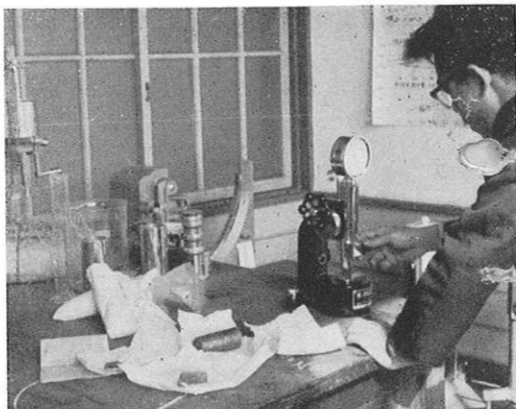
右中、味噌、醤油の分析…食品工業部

下、川尻分場の窯業改良も活潑

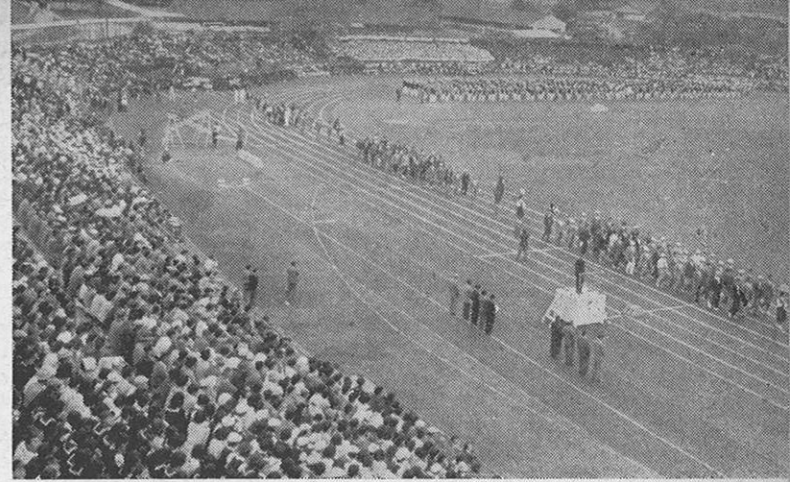
右下、ニューデザインの竹製品いろいろ



中小企業の技術センターとして、工業試験場の利用は近年急激に増えている。本場は熊本市春竹町にあり、木工、理化学、食品工業、金属など各部門の施設が完備して自主的な新しい研究や、各方面から依頼の試験研究に力を注いでいる。又、同じく川尻町にある分場では窯業の改良研究と竹工品の試作研究を行つている。



「広報くまもと」による広報
かな広報活動は望むべくもないので、主として関係の広報媒体を利用して広報した。その主なものは次のとおりである。
・「広報くまもと」による広報
まず、昨年は熊本開催決定に至るまでの経過や施設、輸送、宿泊等の各部の準備状況を報道し、どこで、どの種目が行われるか、準備のための機構はどうなるかについて解説した。
・ラジオ、テレビによる広報



—昨年の県体から……はなやかな入場式風景—

映画、写真による広報 報道委員会も発足……★

国体熱が高まるにつれて、規模も大きくなり、内容も豊富になってきたので、取材のための報道関係者の数も年とともに増加してきている。

したがって、報道関係者の間でも当然取材上の協定が必要となつてくるし取材の迅速化のためにも何等かの調整機関があるということ、静岡大会から報道委員会が設けられることになつた。

本県でも昨年八月関係者の自主的な調整機関としての報道委員会が結成され国体事務局広報部と協力して、国体報道にあたることとなつた。

その構成は、日本新聞協会、日本放送協会、民間放送連盟に加盟する報道機関のうち、熊本市に本社または支社、支局をもつ各社の代表で組織されている。

以上が大体昨年の広報活動の概要だがいよ／＼国体開催の年にあつて、これからの広報活動をどのように進めるか次に、その計画のあらましにふれてみよう

今年の広報計画……★

印刷物による広報

○国体新聞の発行
タブロイド版 一〇万部 三回

○ポスター作成

夏季大会用 三〇〇〇枚

秋季大会用 二〇〇〇枚

○ガイドブックの作成

夏季大会用 四〇〇〇部

秋季大会用 全 右

○記録写真帖の作成

大会記録写真を収録し、関係者に配布する。 二〇〇〇部

○壁新聞の発行

報道班員必携の作成

報道関係者のハンドブックとして作成

○広報くまもとの利用

本年は「広報くまもと」を高度に活用し、国体関係の記事、写真を毎月豊富に盛りこむ。

映画による広報

○国体記録映画の作成

○東京国体記録映画の巡回映写

衛生

各開催地と

タイアップして

このほか報道関係者との協力事項として、プレスパス、腕章、カメラマン用色分け帽子の作成配布、報道席、宿舎、通信施設、自動車、アルバイト等のあつ旋を行い報道委員会と協調して、大会報道の迅速化に努力したい。
また、大会報道にあつては、開催地事務局の協力が不可欠なので、本年は早々に開催地事務局の広報担当者との協議会を開催し、具体的な協力事項について十分な相互理解をはかる計画である。
次に衛生関係の対策はどう進められているか、特に参加選手の健康を保持するためには相当慎重な配慮が必要とされるが、その準備態勢の状況は次のとおりである。

衛生部では、国体参加者の健康を保持するため、防疫、食品衛生、環境衛生、栄養指導など総合的にその対策を企画している。

まず県下の各開催地との連絡態勢をと

り、特に各保健所を中心に地域的条件を考慮し、直接活動できる機構態勢を整え重点指導を展開している。
(食品衛生)

一時に多数の人員が来県し、宿泊する
(13頁へつづく)